

## 第8章 図書館および図書・電子媒体等

### (図書、図書館の整備)

#### 目標

①図書館の利便性を向上させる。

利用者すべてが自由に収蔵資料を検索し、自分の求める資料を見出すことができるよう、電子端末による検索システムを充実させるとともに、携帯電話による検索の効率化を図る。また、ユニバーサルデザインの導入により、総合的な利便性の向上を図る。

②開館時間の延長

2003年度の大学基準協会評価における指導および薬学部学生からの強い要望に対応し、開館時間を19時からさらに延長する。

③図書館利用者の拡大

現行の図書館サービスについて、広報強化に努め、利用度を高める。学生に対するオリエンテーションの実施により、利用者数をアップするとともに、大学の社会貢献の一環として地域社会に対する一般開放を推し進め、一般社会人の利用者数の増加を図る。数値的には入館者数・貸出冊数・レファレンス数等を増加させる。

#### 現状説明

本学は、文学部、生活環境学部、現代文化学部、人間科学部の4学部に加え、2005年度に開設された薬学部を加えた5学部と、大学院文学研究科、人間生活学研究科の2研究科からなる。こうした学部、研究科の教育研究支援のため、図書館ではそれぞれ教育研究に沿った資料整備を行っている。

#### 1) 資料の整備状況

図書費は、毎年、教員数ならびに学生数に応じて学部学科に配分される。これとは別に教員は研究費の配分を受けており、それを利用した資料の購入もある。さらに単価の高いものについては、別途設備費によって購入する道もある。購入した資料費の総額は必ずしも予算額と一致しないが、資料の整備の全体状況については以下のとおりである(表8-1~7)。

表8-1 図書費の推移(予算額) (単位:円)

年度	2003	2004	2005
図書費	53,637,887	53,738,001	76,838,001

\*2003、2004年度は4学部の予算。2005年度より薬学部を含めた5学部の予算

資料購入予算は、2005年度金額が大幅に増加しているが、これは薬学部の図書費が増

えたため、既存4学部の図書費は3年間据え置きのみである。雑誌購入費が毎年アップしているため雑誌の購入をさらに見直す予定である。

表8-2 年間受入図書冊数（教員研究費購入分を含む）

年 度	2003	2004	2005
和書（冊）	8,772	11,645	15,325
洋書（冊）	2,526	2,263	2,357
計	11,298	13,908	17,682

年間受入冊数は、2004年度から2006年度まで、薬学部の設置経費として資料購入費が予算化されたため、2004年度は2割ほど増え、2005年度は薬学部の設置経費と図書費が増えたため、冊数が大幅に増加している。

表8-3 年間受入雑誌種類

年 度	2003	2004	2005
和雑誌（種）	2,067	1,967	1,983
洋雑誌（種）	280	265	276
計	2,347	2,232	2,259

雑誌の年間受入種類数は、薬学部の設置にもかかわらず減少気味であるのは、雑誌が毎年値上げされるため、見直しをした結果で、今後さらに見直しの結果減少していく。これに対しては電子ジャーナルの導入により対応していく予定である。

表8-4 蔵書総数

年 度	2003	2004	2005
和書（冊）	310,190	320,862	336,187
洋書（冊）	112,932	114,817	117,174
計	423,122	435,679	453,361

蔵書総数は、年間受入冊数に連動して増加してきており、それに伴い書庫が満杯状態になってきている。その打開策として、2006年度図書館改築に伴い、開架スペースに約10万冊を収蔵する書架を設置している。

表 8-5 所蔵視聴覚資料

年 度	2003	2004	2005
マイクロ資料（点）	3,012	3,012	3,012
音声資料（点）	1,240	1,310	1,434
映像資料（点）	2,166	2,467	3,242
電子資料（点）	453	470	527

視聴覚資料のうち、マイクロ資料の受入は 2003 年度から増加していないが、これは、資料の電子化による影響があると思われる。また、映像資料が急激に増えており、2006 年度図書館改築に伴い AV ブースを増設して、利用に対応する予定である。

表 8-6 学生 1 人当たり図書受入冊数・図書館資料費・蔵書数

年 度	2003	2004	2005
学生数（名）	4,767	5,185	5,224
1 人当たり冊数（冊）	2.4	2.7	3.4
1 人当たり資料費（円）	11,251	10,364	14,709
1 人当たり蔵書数（冊）	89	84	87

1 人あたりの年間図書受入数、図書資料費は、資料費の増加に伴い順当に増加してきているが、1 人あたりの蔵書数は、学生数の増加が急激なため若干減少気味である。

表 8-7 利用可能なデータベース、電子ジャーナル、新聞記事

データベース	学術コンテンツポータル、KOD、大宅壮一文庫雑誌記事索引、官報、MAGAZINEPLUS、J Dream、Japan Knowledge、レファレンスツール、医学中央雑誌WEB版、D1-LAW、政府資料データベース、J-SET、ニューグローブ世界音楽大事典、Ulrich's Web、Biography、FirstSearch、PsychINFO、SciFinder Scholar
新聞記事	中日新聞、朝日新聞、日経テレコン21、ELNET、Info Trac custom newspaper
電子ジャーナル	メディカルオンライン、American Chemical Society journal package、Blackwell publishing journal package、Wiley interScience journal package、Ovid package

データベース等は、利用者に有用なものを積極的に導入してきたため充実してきている

が、今後は利用統計の分析により、利用頻度の低いものは中止することを予定している。

## 2) 資料の選択

### ①収書方針

基本的な本学図書館における資料収集の柱は以下の 3 点である。

- a) 学生等のニーズに合わせた基本資料の収集
- b) 学生の教育に必要な基本資料の収集
- c) 教員と学生の研究をサポートする専門的分野の資料の収集

### ②選書方法

- a) 「シラバス」記載の参考書・文献等は必ず購入
- b) 学科を中心とした専門性に基づく資料の購入
- c) 専門的な学術資料は図書費の一部と教員の研究費を中心に購入する
- d) 大学図書館として備えておくべき教育研究用の新刊書を中心とした図書全般については、図書館運営委員会が中心となって選書
- e) 雑誌：通年利用度調査の結果に基づいて受け入れの有無を各学科と図書館運営委員会で検討
- f) 電子ジャーナル・データベース等：基本的には利用部署が単独もしくは連携して購入。学部を越えて利用されるものについては、図書館運営委員会が検討の上選定。今後この分野の資料の受入については増加が予想されるため、購入のルールについての検討が特に必要となっている

## 3) 利用者からの要求への対応

資料収集は、2) の収書方針・選書方法に従って収書しているが、それだけでは、必要な資料が収集されない。そのため、利用者が希望する資料を購入することにより、利用者の読書要求に答えている。各年度の実績は表 8-8 のとおりである。

利用者の希望資料について、内容を吟味し、例えばマンガ等は除外、できるだけ希望に添う形で購入している。

表 8-8 学生購入希望図書数

年 度	2003	2004	2005
件	46	81	71

単価およびセット価格が学科配分図書費の範囲内で収まりきらない場合には、大学の設備費を利用して購入している。

#### 4) 施設

総面積 5,811 m<sup>2</sup>

室名 ラウンジ、新聞・雑誌閲覧室、AV コーナー、検索端末 (OPAC) コーナー、開架閲覧室、開架書架、教員・大学院生用閲覧室、書庫、事務室、館長室、会議室、倉庫

これは、2006 年 4 月現在の状況であり、2006 年度内に図書館の改築に伴い大幅に変更される予定である。

#### 5) 設備

##### ①図書検索用専用端末

利用者が自由に利用できる端末を閲覧室 2 階に 14 台設置

##### ②コピー機

利用者が自由に利用できるコピー機を閲覧室 2 階に 2 台設置

##### ③マイクロ資料の利用

マイクロリーダー プリンターを 1 台カウンター内に設置

##### ④AV コーナー

ビデオ (DVD 兼用機) 5 台、CD プレーヤー 3 台設置。ヘッドフォンの貸出により、利用に供している。

##### ⑤その他設備 入館システム、図書無断持出禁止装置 (BDS)、入庫システム

なお、設備に関しても 2006 年 4 月現在の状況であり、2006 年度内に図書館の改築に伴い設備についても増設を予定している。

#### 6) 座席数・開館時間

##### ①座席数

2005 年度まで座席数に変化はない (表 8-9)。2005 年度の薬学部発足に伴い、2006 年度に図書館の一部増改築を行っており、2007 年度以降、座席数は大幅に増加する予定で、学生総数に対する割合は 10%を超える予定である。

表 8-9 座席数

年 度	2003	2004	2005
閲覧座席数	427	427	427
閲覧座席数/学生総数	8.9	8.2	8.2

##### ②開館時間

2005 年度に平日の開館時間を 20 時まで延長した (表 8-10)。2006 年度より、土曜日の開館時間を、9:00~16:30 に延長し、利用時間を延長している。

表 8-10 開館時間

年 度	2003	2004	2005
平 日	9:00 ～ 19:00	9:00 ～ 19:00	9:00 ～ 20:00
土曜日	9:00 ～ 12:00	9:00 ～ 12:00	9:00 ～ 12:00

## 7) 利用状況

### ①開館日数および入館者数

表に記したように、開館日数は、休館日をできるだけなくすよう努力しており、今後は夏休み期間中の閉館日を見直すことにより、開館日数を増やすことを予定している。

表 8-11 開館日数および入館者数

年 度	2003	2004	2005
開館日数（日）	262	255	266
入館者数（人）	54,213	62,539	60,386

### ②貸出人数および冊数

学生の貸出冊数は、貸出冊数を2冊から5冊に変更したことと、利用を促すために開催しているオリエンテーションの効果により、2005年度は飛躍的に増加した。今後はさらに利用を増やすため、オリエンテーションおよびガイダンスについて、内容を再検討していく予定である。

表 8-12 貸出人数および冊数

年 度	2003	2004	2005
学生（名）	10,688	12,915	13,231
教職員（名）	1,001	1,048	924
その他（名）	326	267	230
人数総計（名）	12,015	14,290	14,385
学生（冊）	22,124	27,247	55,338
教職員（冊）	3,736	3,687	6,775
その他（冊）	834	666	1,079
冊数合計（冊）	26,694	31,600	63,192

### ③視聴覚利用

視聴覚資料は、著作権の関係上貸出ができず、館内利用のみであるが、2005年度までは、

図書館に設備している視聴覚機器が少ないため利用があまり増加していない。2007年度からは、機器を増設の予定で、利用の増加が見込まれる。

表 8-13 視聴覚資料利用数

年 度	2003	2004	2005
件 数	154	271	297

#### ④文献複写

文献複写は、依頼・受付とも毎年1,000件を推移しているが、依頼については薬学部開設により今後は大幅に伸びていくことが予想され、その対応を現在検討している。

表 8-14 文献複写数

年 度	2003	2004	2005
依 頼 (件)	1,111	1,248	1,265
受 付 (件)	1,160	984	1,115

#### ⑤資料貸借

貸借は、貸出が借用に対し少ないのは、国立情報学研究所のNACSIS-CATへの雑誌以外の資料の登録がほとんど無いのが原因であると考えられる。しかし、2006年度導入の新図書館システムでは、NACSIS-CATに自動登録する事が可能であるので、今後は、貸出も増加することが予想される。

表 8-15 資料貸借数

年 度	2003	2004	2005
借 用 (件)	65	47	36
貸 出 (件)	2	4	11

#### ⑥参考調査

これは、所蔵の調査、事項の調査のことであるが、インターネットの普及により、利用者自身が情報を探ることができるようになったため、漸減している。しかし、まだまだインターネットでは探すことができない情報も多くあり、そこであきらめている利用者に、図書館側から働きかければ増加することが予想されるので、そういった活動に図書館の業務をシフトしていく予定である。

表 8-16 参考調査

年 度	2003	2004	2005
依 頼 (件)	33	31	25
受 付 (件)	16	15	14

## 8) 利用者へのサービス

### ①図書館オリエンテーション・ガイダンスの実施

#### a)オリエンテーション (館内ツアー)

主に1年生を対象とし、教員からの希望により受付、授業時間中に実施している (表 8-17)。

教員からの希望により実施しているため、未実施の学科があるので、今後は全学部・学科でのオリエンテーションの実施を行うため、教員への働きかけを積極的に行う予定である。

表 8-17 オリエンテーション

年 度	2003	2004	2005
回 数	59	84	69
参加者数	905	1,378	1,033

#### b)ガイダンス

個人ガイダンス、卒論ガイダンス、その他 (OPAC の利用、CD-ROM 検索、データベース・インターネット検索) 等を実施している (表 8-18)。

これは、新入生対象のオリエンテーションとは異なり、卒論作成のためにどのように図書館資料を利用するのかをガイダンスするもので、図書館側からの積極的な働きかけにより急激に増加してきている。今後は、ガイダンス実施のスケジュール、内容を確立することにより、より多くの利用者がガイダンスを受けるようにする予定である。

表 8-18 ガイダンス

年 度	2003	2004	2005
回 数	10	25	51
参加者数	16	33	603

c) 薬学部生ガイダンス

薬学部からの要請により、授業中の教室に出向いてデータベースの利用法等のガイダンスを実施している。

②資料の配架の工夫

利用者にとって資料の配置がわかりやすいようにするため以下の工夫を行った。

a) 利用頻度の高い文庫・新書、絵本などの資料は、3階閲覧室低書架に集中配架した。

b) 2、3階閲覧室では、落ち着いて学習・研究に集中できるよう、授業関連の推薦図書、専門図書（社会科学系・人文科学系・薬学自然科学系を分類番号順に配架）、参考図書を配架した。

なお、2006年度中の改築により、一部開架式から全面開架に移行するため、全面的な配架の見直しを予定している。

③図書館ホームページの公開

図書館ホームページで以下のサービスを実施している。

a) 図書館独自のホームページを作成

b) 利用案内、館内案内、OPAC、資料や図書館に関する情報、リンク、図書館イベント等のお知らせを公開

c) メールによる質問の受付やアンケート回答、大学外からもアクセスが可能

d) 携帯電話による情報提供（お知らせ、開館案内、ベストリーダー、蔵書検索、個人情報確認）、蔵書の検索が可能

また、2006年度導入の新図書館システムでは、図書館ポータルを導入を予定しており、より利用者が使いやすいホームページを予定している。

④広報活動

a) 館長懇談会

利用者、特に学生の図書館への要望を直接利用者から聞くための会で、アンケートでは見えない、学生の利用行動、ニーズが把握することができ、その後の運営に反映させている。表8-19は、その結果である。学部、大学院それぞれに開催しており、今後も利用者の要望を運営に生かしていくため実施していく予定である。

表 8-19 館長懇談会の開催状況

	2003	2004	2005
開催状況	0	2	2

b) 刊行物

開館カレンダー、催し物案内等を2ヶ月ごとに発行し、利用者の図書館利用の便宜を

図っている。今後は、ホームページとの連携により、データベースの利用講習会等の開催等も掲載する予定である。

## 9) 地域開放

大学の地域貢献が求められており、本学では 2002 年度から、大学関係者以外の社会人利用者の図書館利用を進めてきた。その結果、利用者には増減があるものの、貸出冊数は大幅に伸びてきており、学外者に十分に認知されていると思われる。

### ①社会人への図書館開放（開始 2002 年度）

社会人には、以下のようにサービスを提供している。

#### a) サービス内容

閲覧、貸出、コピー機の利用

#### b) 利用方法

登録制で、図書館利用者カードを発行

#### c) 利用状況

また、公共図書館とのコンソーシアムにより、資料の貸出を行っている。

表 8-20 利用状況

年 度	2003	2004	2005
延登録者数	326	267	230
貸出冊数	834	666	1,079

### ②高校生への図書館開放（開始 2002 年度）

社会人への開放と同時期に、高校生の図書館利用を実施している。

#### a) 時期

金城学院高校生は 2000 年度より実施、一般高校生は 2002 年度より実施している。

#### b) サービス内容

金城学院高校生、一般高校生とも閲覧・貸出・端末、コピー機の利用

#### c) 利用方法

金城学院高校生、一般高校生とも生徒手帳により身分を確認し、利用申込を受け付け、図書館利用者カードを発行している。

## 点検・評価

### 1) 資料の整備状況

本学図書館における図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他教育研究上必要な資料の整備状況については、現状説明で明らかのように、本学の長い歴史に基づく膨大な蓄積があり、質、量ともほぼ十分な内容を有すると言えよう。その中で、2005 年度に新たに設置された

薬学部関係資料については、学部開設前の2004年度から2006年度まで特別予算を組んで資料の収集に努めている。他の4学部については図書費が毎年一括配分されるのに対して、2005年度から薬学部については、単独の学部の図書費として予算が計上されており、鋭意充実に努めている。本学は2002年度より、文学部、生活環境学部、現代文化学部、人間科学部の4学部体制をとったが、その際、教養、語学、保健体育系の担当教員が全て、いずれかの学部学科に配置されることとなった。そのため、こうした部門に対する目配りが欠けることのないよう注意してきた。また、4学部のうち、従来の研究教育内容を継承した学部学科とは異なり、人間科学部芸術表現療法学科や現代文化学部福祉社会学科など新たに設置された学科についても、同じような配慮をしてきた。特にこの点については、2005年度より、図書館本体の図書費の中で、各学科に配分された図書費とは別に、必要に応じて図書費を特別配分することによって、不足気味の新資料を充実させる方策をとっている。

本学の視聴覚資料については、マイクロ資料が2004年度までは群を抜いて多かった。これは研究の基本的データを重視した結果であり、今後ともに電子化された資料とともに充実させていくことになる。さらに近年、DVD、ビデオテープなどの映像資料を初め、CD等の音声資料、CD-ROM・DVD-ROMなどの電子媒体も急速に収蔵数を増してきており、2005年度には映像資料が一番多くなった。これに対応する再生機器については図書館本体ではそれほど多いとは言えないが、全学的に見た場合には、十分学生のニーズに対応できている。なおこの点に関しては、2006年度に図書館の一部新築ならびに増改築がなされており、2007年度からは事態が劇的に好転する。

## 2) 施設、設備について

薬学部の新設に伴う学生増、資料の新配置に対応するため、書棚、閲覧席の大幅な増加をはかることとし、現在の施設の一部を取り壊して新館の増設を決定し、2006年度中の完成をめざし、工事に着工した。それとともに、これまで館入口が2階にあったため、すべての人に利用してもらうためには何かと不都合な点があったため、利用者のための施設という観点から、バリアフリー型の入館スタイルを取り入れるため、入口部分をはじめ内部施設にいたるまで、大幅に改善策を施した。また、入口付近にエレベーターを設置し、学生が自由に館内を移動できる体制を整えた。一方、2007年度からは、これまでの一部閉架を改め、全面開架に移行することに伴い、閉架書庫との境を無くすための工事を実施し、資料の展示様式を変更する。また、各階に検索システムを配置して、利用者の利便性を向上させる。また、学生のニーズに応えるために、AVブースの充実をはかる。これとは別に、耐震基準に適応させるため既存施設のうち、現在の耐震基準も満たしていない部分に対しての耐震工事を、2006年度中に実施する。

### 3) 開館時間

開館時間については、従来、女子大学図書館という特殊性などから、19時を限度としていたが、2003年度の大学基準協会評価において、開館時間を19時からさらに延長するよう指導を受けていたこともあり、2005年度から20時まで引き下げた。この結果ほぼ他の大学と同等の開館時間を確保したことになり、学生に対するサービスは向上した。

### 4) 図書館ネットワーク

図書館ネットワークは、すでに1996年度からホームページを開設し、Webによる資料検索システムを稼働させてきた。これと連動して、2002年度には収蔵している全資料のデータの電子化を完成している。この結果、資料検索の利便性は一気に高まった。ホームページからは、他大学、公共図書館の資料検索も可能であり、携帯電話のためのサービス提供もなされている。システムの保守点検、リプレースを着実に実行しているため、利便性は着実に向上している。

### 5) 図書館利用者の拡大

これまで、希望する学科にのみ実施していた新入生に対するオリエンテーションを、2005年度からほぼすべての学科に対して実施することができた。この結果、利用者数は着実に伸びている。利用者の希望を調査するために2004年度から実施されている館長懇談会では、受付カウンターの対応など具体的な問題から、検索システムについてのガイダンス希望など広範囲にわたる要望が出されている。一部閉架のため、資料請求に職員の手を煩わせることに遠慮があるという指摘は、図書館側の考え方を根本から考え直させるものであった。こうした意見をもとに、さらに利用者の利便性を向上させるために努力している。

本学図書館では、大学の社会貢献の一環として、エクステンション・プログラムなどと連携しつつ、地域社会などに対する一般開放を積極的に推し進めてきた。これまでに一般社会人の利用者数の増加（入館者数・貸出冊数等）など、一応の成果はあったと考えているが、さらにこれを推し進めるための広報活動を活発にする必要がある。

## 改善方策

### 1) 資料の整備状況

質的にも数量的にも、ほぼ大学の構成に適応した資料収集がなされていると考えられる。特に図書館が主体的に重点的配分を行うルールができたことは評価できる。ただ、大学図書館としての選書についての基本方針は自明のこととされているが、現実には学科単位の選書が多く、専門的研究書については教員に任される度合いが多いため、今後は、資料の電子化に対応するためにも、選書についての基本ルールを策定し、学部学科間の連携を緊密にして、相互の調整により適正な資料を収蔵できるような体制をつくる必要があると思われる。

## 2) 施設、設備について

図書館の施設、設備が2004年度までは学生数に応じた適正な状態で推移してきたことは、2003年度の大学基準協会の評価によっても明らかである。2005年度に薬学部が開設されたことにより、薬学関係図書の配架、席数の確保など新たな対応策を講じる必要が出てきた。これとは別に、図書館の建物自体が現在の耐震基準を満たしていないところから、全館に耐震工事を施すこととなった。評価対象年度中に実現していないので、詳しく述べられないのは残念であるが、学内における建物に対する耐震工事の施工順位が、図書館はたまたま2006年度に当たっており、2005年度には詳しい実施要領が決まっていた。耐震強度検査によって、補強するより新築したほうがより効果的な建物があることが判明、そのため、4棟ある図書館棟の1棟を取り壊し新築すると同時に、全館の内容を一新することとなった。この計画は2006年度4月から実施着工に至った。2006年度中に完成し、2007年度からは学生に新しいサービスを提供できるようになる。計画によれば、バリアフリーを実現し、1階から4階に至るエレベーターを設置する。また全館を開架とし、各階に検索端末を置き、AVコーナーなど電子関係施設を充実、利用者の利便性が一気に向上することになっている。

## 3) 開館時間

20時まで開館という一定の目標は達成されたが、授業開始前開館という点についても今後は検討が必要となるだろう。

## 4) 図書館ネットワーク

本学の図書館ネットワークは、すでに1996年度からホームページを開設するなど先進的な歴史を有する。全資料の電子データ化、学内外からの電子端末による検索が可能なことなど、他大学と比較しても評価されてよい。今後は、さらに他大学、公共図書館等との連携が効果を上げるよう、システムの一層の洗練、高度化が必要である。

## 5) 図書館利用者の拡大

工事中の新館が完成すると、2007年度からは、館入口の配置、利用システム、館内の資料配置等が劇的に変化する。図書館のエントランスの外部に、学生のラウンジコーナーができ、新聞閲覧などが気軽にできるようになる。それとともにこれまでの一部閉架を取りやめ全面開架に移行するとともに各階毎に検索システムを配置し、利用者の利便性を大幅にアップさせる。また、引き続き館長懇談会など利用者の声を館運営に反映させる方策を考える。これと同時に、広報、収書などに、図書館委員の教員が積極的にかわり、館をあげて利用者のための対策を考え、拡大に努める。

## (学術情報へのアクセス)

### 目標

#### ①図書館の利便性を向上させる

利用者すべてが自由に収蔵資料を検索し、自分の求める資料を見出すことができるよう、電子端末による検索システムを充実させるとともに、携帯電話による検索の効率化を図る。また、ユニバーサルデザインの導入により、総合的な利便性の向上を図る。

#### ②NACSIS-CAT(目録所在情報サービス)への所蔵データの登録率をアップする

図書館資料の汎用化を実現し、他図書館からの資料貸出依頼を積極的に受け入れるため、NACSIS-CATに登録する自館の所蔵情報を増加させる。

#### ③電子資料の充実により、情報を迅速に提供する

最近の資料の電子化に対応し、電子資料の収集を充実させ、利用者が情報を迅速に得られるようにする。

### 現状説明

学術情報の整備状況等については、次のとおりである。

#### 1) 学術情報の整備

##### ①全目録情報の電子化

本学は全目録情報の電子化を達成し、これによってホームページ上からの自館資料の検索が容易になっている。また、本学図書館のホームページからは、他大学、公共図書館の検索も可能で、利用者に様々な情報を提供している。また、2001年度からは携帯電話による情報提供もはじめられており、お知らせ、開館案内、ベストリーダー、蔵書検索、個人情報確認など細やかな内容で利用者の利便を図っている。

##### ②国立情報学研究所の目録情報システム(NACSIS-CAT)へ参加

登録件数 図書 約5,000件、雑誌 約9,000件(2006年3月現在)

#### 2) 情報、資料の相互交換等の協力

##### ①相互利用

a) 国立情報学研究所の相互協力システム(NACSIS-ILL)、料金相殺制度に参加

b) 貸借・複写サービスを実施するとともに、学外者についても本学構成員と同様に利用できるよう、手続きを簡素化している

##### ②利用状況

文献複写については漸増しており、今後は薬学部の開設により大幅な増加が予想される。資料の貸借については、借用の方が多いが、これは、NACSIS-CATに図書のデータ登録があまりなされていないためである。これに関しては、2006年度、図書館システムをリプレースしたため、簡単にデータを登録することができるようになるため、登録率を上げることが可能となり、他図書館からの利用もアップすることが予想される。

### ③ 分担保存

私立大学図書館協会西地区部会東海地区協議会紀要・学内学会誌分担保存協定に参加し、自学発行の資料の保存に努めている。

## 3) ネットワークによる情報提供

### ① 学内 LAN の利用

図書館システムの所蔵資料検索 (OPAC) を学内のあらゆる場所から利用できる

### ② 図書館蔵書検索システム (OPAC)

すべての所蔵資料がデータベース化され、検索することが可能である

### ③ ネットワーク対応機器の設置

利用者専用端末は 14 台設置し、OPAC やインターネットが自由に利用できる

### ④ 図書館ホームページの開放

#### a) WWW 版蔵書検索目録 ([CALIS]) 公開

国立情報学研究所 (NII) の WebCAT にもリンクしている

#### b) オンラインデータベース、新聞記事データベース、電子ジャーナルの掲載

「EBSCOhost」をはじめとする 17 種のデータベース、「朝日新聞」をはじめとして 4 種の新聞記事データベース、「メディカルオンライン」をはじめとして 5 種の電子ジャーナルをホームページに掲載している

#### c) 国立情報学研究所をはじめ主な大学図書館、公立図書館のホームページおよび国内外の図書に関するサイトやその他活用できるサイトを集めたリンク集を掲載

#### d) 携帯電話対応ホームページの公開

お知らせ・開館案内・ベストリーダー・蔵書検索などのサービスを提供

## 4) 情報検索システムの整備状況

### ① 単体の CD-ROM

館内に専用のパソコンを設置し、利用させている

### ② 雑誌論文データベース

『EBSCOhost』他、17 種のデータベースが大学内でフリーにアクセスすることが可能

### ③ 新聞記事データベース

日経テレコン 21 他、4 種の新聞を大学内でフリーにアクセスすることが可能

### ④ 電子ジャーナル

メディカルオンライン他、5 種の新聞を大学内でフリーにアクセスすることが可能

## 点検・評価

所蔵資料のデータベース構築がなされたことで、早い段階から本学学術情報の提供が可能となっている。それを受けて図書館資料の汎用化を実現し、他図書館からの資料貸出依

頼を積極的に受け入れるため、NACSIS-CAT に本学図書館の所蔵情報の登録数は着実に増加している。

相互協力については増加の傾向にはあるが、本学図書館からの依頼件数に比し、他大学からの依頼が相対的に少ない。

現状は新館体制への過渡期に当たるため一部に不十分な点があることは否定できない。

#### **改善方策**

情報検索システムの整備状況については、インターネット環境の飛躍的な展開を受けて、オンライン・データベースの積極的な導入とデータベースの大学内フリーアクセス化、LAN 対応の CD-ROM や DVD などのデータベースを積極的に利用する体制を整える必要がある。急激な情報環境の変化の中で、本学では早くから資料の電子化に取り組み、学内情報と外部環境との交流をめざして取り組んできたが、ようやく形が整った段階と言えるだろう。先にも述べたように、この評価時点では、新館の体制についての言及ができないため、非常にもどかしい思いをしているのであるが、薬学部の新設という新しい段階を迎え、薬学自然科学系情報の受け入れ、発信という点で、これまで以上に積極的な取り組み、さらなる努力を求められることとなった。前回の評価をふまえて、一層の努力をしてゆきたい。